

は じ め に

本市は、鹿児島県の北西部に位置し、本土地域の中央部には熊本県の白髪岳を源流とする一級河川の川内川が貫流しています。平成１７年１１月には蘭牟田池がラムサール条約湿地に登録され、平成２７年３月には甕島国立公園が誕生しました。風光明媚かつ豊かな自然環境の中には、多様な生態系が構築されています。

かつて、いわゆる「産業型公害」と呼ばれた大気汚染や水質汚濁などは、こうした各地域の豊かで美しい自然環境を危機に曝してきましたが、昨今の規制強化や人々の環境に対する意識の変化等によりある程度沈静化してきました。しかしながら、その一方で、身近な事業活動や日常生活の多様化により、地球温暖化や生物多様性の損失といった地球レベルでの環境問題へと広がりを見せています。

そのような状況の中で、「持続可能な開発目標（SDGs）」が、平成２７年（２０１５年）９月に国連で採択されました。これは、環境・経済・社会に関わる１７のゴールと１６９のターゲットで構成される世界が合意した国際目標であり、同年１２月に採択された地球温暖化対策としての「パリ協定」と両輪となって、国際社会の今後の発展の方向性を示した道しるべとなっています。

これらの動向も踏まえ、本市では、令和３年６月にSDGsの理念に基づき、多様性と包摂性のある社会の実現や持続可能で魅力的なまちづくりを推進すること、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しました（薩摩川内市未来創生SDGs・カーボンニュートラル宣言）。平成２８年３月に策定した、「自然と共生し快適に暮らせるまち 薩摩川内」を基本理念とする薩摩川内市環境基本計画（第２期）と併せて、自然環境の保全と持続可能な地域社会の構築に向けた各般の施策を展開していきます。

本書は、令和２年度における本市の環境の現況と施策の内容や実績等を取りまとめたものです。まだまだ先行きが不透明なコロナ禍のまっただ中にある昨今ではありますが、市民の皆様により一層のご理解をいただくとともに、市民・事業者・市が協働して環境の保全に向けた具体的な取組を進めていくための一助となれば幸いです。

令和４年２月

薩摩川内市長 田 中 良 二